

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和5年2月24日

公表:令和5年3月10日

事業所名 田原市児童発達支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	0	・場に応じてパーティションを設置し、空間づくりをしている。	
	2	職員の配置数は適切である	13	0	・人員基準に対して十分な人員を配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13	0	・子どもの実態に合わせてパーティションを置いたり活動の流れの絵カードの配置を考え直したりしてわかりやすい構造化を目指して努力している。 ・今年度は本人によりわかりやすい環境にするために衝立を用意する等構造化を工夫しました。 ・子どもの発達や特性に合わせて、職員、保護者チームになって環境を考えることができた。	壁の飾りは親しみやすさを損なわない程度に必要最小限にし、わかりやすい環境づくりを心掛けていきます。また、スケジュールの掲示は掲示場所を工夫し、大人と子ども、それぞれの導線に合わせてようにしていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	0	・空間が少し広いスペースとなっているので、パーティションを利用し空間を少し狭くすることで落ち着いて過ごせるようにしている。 ・日々の消毒清掃は細部にわたって行っている。 ・空間づくりは活動に合わせてパーティションを利用している。 ・療育後は、玩具や訓練室の消毒を毎日行っている。場面に応じて間仕切りや机・椅子を設置して対応している。 ・通常的环境整備に加え、アルコール消毒などこまめに行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	0	・木曜日のカンファレンスを中心に行事などの振り返りや改善方法の話し合いを行い、よりよいものをめざしてきた。	各クラス単位で振り返りを行っていますが、全体でも振り返りを行えるように、朝礼・夕礼を上手く活用しすべての職員が振り返りに参画できるようにしていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	13	・第3者による外部評価は実施していません。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	・外部講師の研修に参加したりセンター内でも研修を行っている。 ・園内での研修はもちろん、外部で行われる研修も積極的に受講している。	コロナ禍のため研修を受講する機会が制限されていましたが、規制の緩和とともに他の児童発達支援事業所への視察研修や外部研修に参加できるように、研修の機会確保に努めています。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	0		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13	0	・支援計画を基にポイントを絞って支援したり、こどもの様子を見ながら臨機応変に対応し、支援方法を考えている。	支援計画に沿った支援を行っていますが、保護者や利用者にもわかりやすいようにその都度計画の内容について知らせていきます。

適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	13	0	・昨年度より、話し合いの時間を確保できている。 ・職員全体でのカンファレンス、各チーム担当でのカンファレンスを行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	・子どもの持つ課題に目を向け、どのような点を伸ばすか明確にして様々な活動に取り組むようにしている。 ・子ども達の興味関心に合わせながら、経験させたいことも考慮して工夫している。	マンネリ化しないように反省を踏まえて内容を変更しています。活動プログラムのポイントをその都度保護者や利用者へ伝えていきます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	13	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	0	・毎朝、職員全体でカンファレンスを行い、活動内容を確認し、その後チームでの支援内容等細かい部分を再度確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	0	・支援終了後には必ず振り返り、気づいた点など共有し、支援方法や環境設定などより良い支援が行うことができるようにしている。 ・職員室に戻った後に、その日に関わった子どもへの支援や様子などについて話題にして語り合っている。 ・その日の子ども達の姿や支援方法を振り返り、個々に合ったより良い支援を検討し、共有する時間を設けている。	単独通園のスタッフと親子通園のスタッフが、より連携がとれるように情報共有の時間を確保していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0		日々の支援の記録については毎日徹底しています。センター内研修等で支援方法を振り返り、これまで以上に支援の検証・改善につなげていきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	0		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	・児童発達支援管理責任者及び各児童の担当保育士が参加するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	13	0		適時必要に応じて、関係機関と連携するようにしています。今後も、関係機関と密に連絡を取り合い、必要に応じた支援を行ってまいります。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	13	0	・今年度は対象の児童はおりませんが連携した支援を行う体制づくりは行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	13	0		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0	・互いに行き来して子どもの支援について共有できるようにしている。	各関係機関と情報の共有及び相互理解を図っています。今後も状況に応じてその回数を増やしたり、アフターフォローを実施してまいります。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0		各関係機関と情報の共有及び相互理解を測っています。しかし、特定の学校との間でのやりとりで留まっている現状があるため、どの学校でも行えるように周知と連携を徹底してまいります。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13	0	・専門機関と連携し研修を行ったりセンター内でも臨床心理士や言語聴覚士の助言を受けたり、研修を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	12	・ほとんどの子が園とセンターを併用しているため、障害の無い子と活動できる機会がある。 ・実施していません。 ・当センターでは特に機会を設けていないが、各利用者の地元こども園、保育園との併用利用が多いため、子ども達は経験することができている。	地域柄、交流する機会を確保できないのが大きな課題です。近隣の保育園の子ども達が近くの公園に来る時に合わせて交流することができないかどうか、検討してまいります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12	1		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	・家庭での子どもの様子を聞きながら、センターの様子と照らし合わせて保護者とともに支援方法を考えている。	

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・全員参加ではないが、参加している保護者は支援する視点が広がってきていると感じる。全員参加できる方法を考える必要があるのかもしれない。 ・希望した保護者に対して、ペアレントプログラムを実施し、保護者が日々の子どもの関りを振り返る機会になった。 	すべての保護者が参加しやすい工夫をしていきます。また、支援メニューの充実も考えていきます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	13	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の悩み等相談を受けた時など誠実に受け止めより安心できるよう臨床心理士との相談の時間を設けるようにしている。 ・児童の状態、保護者の思いなど受け止めながら相談する時間を設定することができた。 	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会はないが、交流する機会は設けている。もう少し回数を増やした方が良いのか？ ・保護者勉強会や交流会を不定期で開催し、保護者同士が情報交換できる機会を設けている。 ・利用者全員に参加を投げかける行事、保護者交流、ペアレントプログラム等の実施により保護者同士のつながりを深めることができた。 	保護者の交流会の回数を増やしていきます。母親の交流会だけでなく、父親の交流会等様々な形での開催を考えていきます。また、コロナ過の状況をふまえるながらもありますが、両親や家族で参加できる参観日も設けていくことを検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0		今後も保護者からの相談や申入れがあった場合、迅速かつ適切に対応していくように努力していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	13	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	13	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ過のため難しいところがある。今後検討していく必要があるのかもしれない。 ・実施していません。 	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員、保護者が全員揃う時がないので訓練の実施時期が難しいと思った。定期的に複数回行いたい。 ・毎月、様々な状況を想定した訓練を利用者と実施している。 	各種マニュアルを策定し、職員や保護者への周知や訓練はしていますが、抜けがないように定期的に見直し、共有していきたいと思います。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	0		各種マニュアルを策定し、職員や保護者への周知や訓練はしていますが、抜けがないように定期的に見直し、共有していきたいと思います。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	13	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・対象のお子さんはおりませんが、医師の指示書に基づいて対応ができるようにしています。 	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、作成中。定期的に共有する機会を設け、事故防止に努めていく。 ・ヒヤリハット事例が生じた場合は専用の書類に記載し、職員会議で情報共有をしている。 	ヒヤリハット事例集を作成し、職員会議で情報共有、分析等を行いました。今後も定期的な情報共有及び分析を行う機会を確保していきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も行っているが、今後も定期的に時間を設け職員の意識を高めていく。 ・田原市児童発達支援センターにおける虐待防止のための耐性の整備に関する要綱、虐待防止委員会設置要綱を作成している。また、虐待防止委員会を実施している。 	これまで以上の充実を図るために研修や虐待防止委員会の開催を増やしていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も行っているが、今後も定期的に時間を設け職員の意識を高めていく。 ・個別支援計画に記載するとともに、計画提示時にはその都度説明を行っている。 	どのような行為が身体拘束に当たるのか、職員同士で話し合う機会をこれまで以上に確保していきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。